



令和 2 年 7 月 28 日

独立行政法人 国立科学博物館

貴重な標本を救え！！ 全国其自然史系博物館・大学による 「令和 2 年 7 月豪雨」植物標本レスキュー支援活動について

独立行政法人 国立科学博物館（館長：林良博）は、西日本自然史系博物館ネットワークおよび全国其自然史関係機関とともに、令和 2 年 7 月豪雨により被災した人吉城歴史館所蔵「前原勘次郎植物標本」のレスキューにおいて、人吉市、熊本県及び熊本県博物館ネットワークセンターの支援を開始しました。

（概要）

令和 2 年 7 月豪雨に伴う球磨川氾濫により、人吉城歴史館（人吉市）は浸水被害を受けました。同館は前原勘次郎氏の採集した植物標本を所蔵していますが、この標本も被災しました。

前原勘次郎氏（1890-1975）は、南九州の植物研究史上重要な文献である『南肥植物誌』の著者として知られています。同氏のコレクションはこの文献の貴重な証拠標本であり、新種記載に用いられた可能性のある標本など、植物学的にも重要な標本が多数含まれています。このコレクションの大半がこのたびの豪雨で水に浸かり、早急に乾燥・クリーニングを行わなければ腐敗やカビの発生で標本の価値が損なわれるおそれがあります。

人吉市の依頼により、熊本県及び熊本県博物館ネットワークセンターは、この標本の搬出を判断、水損した標本の数が約 3 万点という膨大な量であることから、迅速な保存処理を行うために、「植物系学芸員メーリングリスト」などを通じ全国其自然史関係機関に協力を依頼しました。

この状況を受け、国立科学博物館は、植物研究部海老原研究主幹を中心に、東日本大震災時の被災標本修復を担った岩手県立博物館や西日本自然史系博物館ネットワーク等と連携して全国での分散対処の調整を行い、各機関が協働して水損した標本の修復に取り掛かることとしました。

新型コロナウイルス感染症予防のため、現地での支援に入るのが困難な状況ですが、全国の関係機関が連携協力し、分散対処という形でこの貴重な自然史資料のレスキューに取り組みます。

修復後は、標本は再び全国から地元へと返還され、地域の重要な自然史資料として保存される予定です。文化財防災ネットワークとも連携し、被災地の文化的な保全と復興に貢献していきたいと考えています。

《人吉城歴史館所蔵「前原勘次郎植物標本」のレスキューに参加を予定している機関（7月26日現在）》

北海道大学総合博物館，釧路市立博物館，岩手県立博物館，福島大学共生システム理工学類・史料研究所，ミュージアムパーク茨城県自然博物館，群馬県立自然史博物館，千葉県立中央博物館，千葉県立中央博物館分館海の博物館，東京大学総合研究博物館，東京大学大学院理学系研究科附属植物園，国立科学博物館，東京都立大学牧野標本館，神奈川県立生命の星地球博物館，川崎市環境総合研究所，相模原市立博物館，石川県立自然史博物館，ふじのくに地球環境史ミュージアム，岐阜県博物館，三重県総合博物館，滋賀県立琵琶湖博物館，京都大学総合博物館，大阪市立自然史博物館，あくあびあ芥川（高槻市立自然博物館），兵庫県立人と自然の博物館，和歌山県立自然博物館，島根県立三瓶自然館，倉敷市立自然史博物館，岡山理科大学，徳島県立博物館，高知県立牧野植物園，九州大学総合研究博物館，北九州市立いのちのたび博物館，熊本大学大学院先端科学研究部，熊本市立熊本博物館，御船町恐竜博物館，鹿児島大学総合研究博物館



国立科学博物館筑波研究施設に到着し開梱される被災標本

一部が水を吸った状態の標本



水没した標本を、熱風で乾燥させるため
段ボール板の間に挟む作業

【問い合わせ先】

独立行政法人 国立科学博物館
植物研究部 陸上植物研究グループ研究主幹 海老原淳
〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1
TEL: 029-853-8901(代) FAX:029-853-8998

科学系博物館イノベーションセンター 博物館連携担当(濱田, 南部)
〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20
TEL: 03-3822-0111(代) FAX: 03-5914-9899 e-mail: khamada@kahaku.go.jp